

# 中心市街地の都市公園における利用者の空間の 使い分けに関する研究

## ～「東京都豊島区南池袋公園」を事例として～

氏名 飯塚達也

近年、我が国の都市公園のストックは増大する一方、施設の老朽化の進行や都市公園を管理する地方公共団体の財政状況の悪化を受け、ストックの適切な維持管理を進めることが主な課題となっている。また、時代の変化や多様化するニーズに対してポテンシャルを活かしきれていない都市公園も多く見られる。

こういった課題に対して、国土交通省は都市公園法の改正などを行い、公園の再生・活性化を推進した。また、居心地が良く歩きたくなる歩きたくなるまちなかづくりを推進する事業として、「まちなかウォークアブル推進プログラム」を策定した。ウォークアブル推進プログラムの1つとして、まちなかへの緑・芝生を活用した空間の創出が居心地の良さを生み出すとしている。

また、国土交通省が行った都市公園利用実態調査によると、公園利用者が選択する公園や欲しい公園については、「緑が多い」という回答が多いことから、芝生や緑の空間が求められていることがわかる。

こういった背景から、都市公園をはじめとする屋外公共空間において、居心地の良さや緑のニーズが高まっていると言えるだろう。今後、居心地の良さを求めた都市公園など屋外公共空間の創出が活発になっていくと考えられる。

そこで本研究では、2016年にリニューアルされた東京都豊島区南池袋公園を対象に、中心市街地の都市公園における利用者の利用実態を調査することで、目的に応じた空間の使い分けの特性を明らかにし、今後の中心市街地における居心地の良い空間の創出のための考察を行うことを目的とした。

第1章では本研究を進めるにあたっての社会的背景や本研究に関連する既往研究のレビュー、研究の目的について論じている。第2章では本研究に関連する豊島区の再開発事業や南池袋公園について説明している。第3章では本研究を進める上で実施した南池袋公園の利用実態調査の調査概要と調査結果をまとめている。

本調査では、平日と休日の朝(9:00)、昼(12:00)、夕方(16:00)、夜(19:00)の4つの時間帯で調査を実施した。調査は各時間帯に南池袋公園を一周して利用属性と利用行為を記録する観察調査とした。南池袋公園の芝生広場、サクラテラス、多目的広場、キッズテラス、可動式のテーブルと椅子のある芝生横のエリア、池袋駅方面の入り口周辺の6つのエリアを対象とし、各エリアの利用実態を調査した。

調査の結果から、芝生のような地面に直接座ることのできるエリア、ベンチや可動式椅子など様々な要素を含めた空間とすることで様々な利用者、利用目的に対応することのできる居心地の良い空間が創出できると考える。また、芝生広場のような開かれた空間だけでなく、視線の少ない場所に居心地の良さを感じる利用者もいることが考えられるため、入口から遠い場所や人の通り抜けが少ない場所にベンチを設置するなど滞留できる空間にすることも必要であると考え。塀や植栽などで視線を遮り、個人スペースを感じることができるようなデザインを導入することも一つの方法であると考え。

今回の研究では朝、昼、夕方、夜という4つの時間帯に限定して、一時的な行為について調査を行ったが、1時間ごとに滞在時間などの要素を含めて調査することも必要であると考え。また、今回の調査は10月の比較的過ごしやすい平日と休日に実施したものであり、季節の変化や天候などによっても公園の使われ方が変わってくると考えられるため、そのあたりは今後の課題としたい。